

令和6年6月5日

学校法人 ぜんりょう学園  
専門学校 北九州自動車大学校  
校長 小山 繁

## 「自己評価及び学校関係者評価結果 令和5年度版」 報告

学校法人 ぜんりょう学園 専門学校 北九州自動車大学校は、令和5年度における自己点検・自己評価を実施したのち、学校関係者評価委員会を令和6年6月3日（月）に開催し、各評価項目についてまとめた結果を学校教育法、同法施行規則並びに専修学校設置基準における学校評価に関する規程に基づき「自己評価及び学校関係者評価結果 令和5年度版」として、ここに公開いたします。

学校関係者評価委員会のご意見を真摯に受け止め、本校の教育と運営についてさらなる向上を目指し、教職員一同、努力して参ります。今後とも一層のご支援、ご協力を賜りますようどうぞよろしくお願い申し上げます。

### 学校関係者評価委員名簿

氏 名	所 属 先
木下 伸二	一般社団法人福岡県自動車整備振興会 指導部教育課
金丸 孝弘	株式会社ジャパン三陽 名古屋営業所
成重 哲	株式会社スズキ自販福岡 本社 サービス本部
宮本 達也	株式会社ネクサス 取締役営業本部長
樺枝 浩志	本校同窓会副会長

(1) 教育理念・目標・人材育成像

評価項目	具体的取組	自己評価	課題と改善策	評価委員会の意見
1-1 学校の理念・目的・育成人材像は定められているか	理念は学園創立者の建学の精神「自主独立と新開拓者精神（ノヴァフロンティア）」として示され、この精神に沿って、教育目標・育成人材像は、自動車整備に関する学術理論実施技術を指導・教育し、人類社会の福祉に貢献する有能な技術者を育成することと明確に学則に定め、学生便覧等で教職員及び学生に周知徹底している。また、各学科における具体的な学修成果や学生が身に付けるべき資質・能力について、ディプロマポリシーを定め、本校ホームページに公表している。	4	現在の取組を継続する。	
1-2 学校における職業教育の特色は何か	実践的な自動車整備士を育成するため、実務経験豊富な多くの教員を配し、また、企業と連携した実習・演習を実施している。さらに、広い視野を持った自動車整備士を育成するため、ビジネスマナーやコミュニケーション能力を高めるソーシャルスキルの向上に努めるとともに、福祉車両取扱士などの資格取得をすることで、多様な車両の必要性を理解させている。	4	企業と連携した実習・演習をさらに強化して行きたい。また、有用な社会人となるために必要な「社会人基礎力」とともに、「人間力」の養成にも努めたい。	

<p>1-3 社会のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか</p>	<p>近年、自動車技術の進化は目覚ましく、こうした技術に適切に対応できる自動車整備士の育成が望まれている。このような社会のニーズに対応するため、企業の協力を得ながら、学内での新型車技術講習会等を毎年実施している。今年度は、国内外車種を取り扱うディーラー様のご協力により、現車による新技術の知識の吸収を図ることができた。次年度以降も先進安全自動車等の新技術に関しては、関係企業の協力を得ながら積極的に技術講習会を実施していく。また、本校の教育内容が、自動車整備業界で必要とされる技術者養成に適正かどうかのチェック機能を果たすため、毎年度開講した全科目のシラバスを公開している。入学者数減少に伴う長期的な将来構想については、全職員でオープンキャンパスやガイダンスに取り組み、主体的かつ計画的に募集活動を展開した結果、幾分入学者は減少したものの、微減となった。</p>	<p>4</p>	<p>「自動車整備士技能検定規則等の一部を改正する省令」が令和4年4月に公布された。このことにより、令和7年4月より、二級自動車整備士養成の新教育課程がスタートし、「電子制御装置整備」に係る養成内容が含まれることになる。このことに対応して、教育内容（カリキュラムとシラバス）やそれに則した施設・設備の充実を図り、社会のニーズと本校の強みを組み合わせた継続的かつ差別化できる将来構想を早急に練り上げたい。</p>	
<p>1-4 学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか</p>	<p>学校の教育目標や育成人材像については学生便覧に明示し、学生や保護者に周知している。また、学校の特色や現状での将来構想については、本校ホームページに公開している。</p>	<p>4</p>	<p>現在の取組を継続する。</p>	

<p>1-5 各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか</p>	<p>年に2回、定期的に自動車関連企業からのニーズをヒアリングし、その結果をシラバスに反映させることにより、育成人材像を改善している。また、インターンシップや企業と連携した実習・演習を実施することにより、教員及び学生は業界のニーズを深く理解することが出来ている。</p>	<p>4</p>	<p>年々企業との連携が密になっており、様々な機会を設け、成果ある教育活動に発展させたい。一級4年生にはインターンシップを実施している。また、現在、1年生は希望者のみ、2年生は受入れ可能な企業へ依頼してインターンシップを実施しているが、その輪をさらに広げ、低学年から実践教育を通じて学生自身が企業のニーズを汲み取れる環境をさらに整備したい。また、ディーラーに偏ることなく学生の意向を尊重し専業整備工場への学生派遣も視野に入れ本事業を進めたい。</p>	<p>令和6年10月より、OBD検査が本格運用されることから、教育内容に検査概要を入れると良い。</p>
---	---	----------	---	--

自己評価点数 4：適切、 3：ほぼ適切、 2：やや不適切、 1：不適切

### 課題と今後に向けての考え

- ・ 育成人材像を明確化するため、ディプロマポリシーを作成・公開しているが、学生への周知の徹底と社会的評価を踏まえた改善を検討したい。
- ・ 将来構想については、年度ごとの計画が立案遂行され、教職員には内容の周知を行っているが、長期的将来構想についても検討を重ねたい。
- ・ 全科目のシラバスを公開しているが、引き続き業界の意見を聞きながら、社会のニーズをさらに取り入れた授業内容に改善して行きたい。
- ・ 教育目標や育成人材像は、社会のニーズとともに大きく変化していくと考えられる。自動車業界は、電気自動車、自動車の自動運転化、並びに空飛ぶクルマなどの開発が活発化し、クルマの整備内容が大きく変化しようとしている。また、自動車整備業界では、「自動車整備士技能検定規則等の一部を改正する省令」が令和4年4月に公布された。これに伴い、二級自動車整備士養成の新教育課程が令和7年4月より開始され、数年後には、車載式故障診断装置を活用した検査（OBD検査）も導入されることになっている。本校は、このような大変革の時代に向けた整備士を養成する教育機関として、監督官庁や整備業界の動向を注視しながら、整備士の資質向上を目指し更なる教育内容の改善を図って行く。

## (2) 学校運営

評価項目	具体的取組	自己評価	課題と改善策	評価委員会の意見
2-1 目的等に沿った運営方針が策定されているか	学校の目的、目標に基づいた学校運営方針は明確である。毎年度初めに、校長から運営方針や各部署への業務内容が通達され、また、教務課、学生課並びに進路支援センターから目標や職務分担が作成されている。これらのことは、職員会議を通じて全教職員に認識されると同時に活動の基軸となっている。運用についてもスムーズに展開できている。	4	現在の取組を継続する。	
2-2 運営方針に沿った事業計画が策定されているか	運営方針に沿った事業計画を策定し、実行のための予算を作成している。	4	現在の取組を継続する。	
2-3 運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか	本校を含む学園全体の運営組織は健全に機能しており、変更がある度に校務分掌一覧を配布している。意思決定機能は、学園では寄附行為により、また本校では学則等により、明確化されている。	4	現在の取組を継続する。 令和7年に私立学校法の改正があり 令和6年度中に寄附行為の変更準備を行う。	
2-4 人事、給与に関する規程は整備されているか	人事は就業規則により、給与は教職員給与規程、退職手当は退職金規程等により、整備されている。	4	現在の取組を継続する。	

<p>2-5 教務・財務等の組織整備など意識決定システムは整備されているか</p>	<p>教務課、学生課、進路支援センター、事務局等の管轄部署を区分けして整備されており、それぞれの職務責任者が各部署とも連携を取りながら意思決定を図っている。財務事項については、理事会・評議員会を年に最低2回は開催し、財務安定化についての議論を行っている。これらの意思決定は、稟議が上がってきたとき、事務局長・校長・副校長で協議し、時には理事長を交えて行うなど、そのシステムは整備されている。さらに、学校運営に関する諸問題や改善策は、定例あるいは臨時の教員会議で迅速かつ慎重に議論を行い、実行に移している。</p>	<p>4</p>	<p>現在の取組を継続する。</p>	
<p>2-6 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか</p>	<p>入学当初に諸規定等を記載した学生便覧を配付しており、常日頃より実習朝礼や毎週実施されるホームルーム等を通して法令遵守の重要性等を学生に指導している。また、1年次の学科「社会教養学」、3年次の学科「ビジネスマナー」にてコンプライアンス教育及びITリテラシー教育を実施している。昨年度評価委員から質問があったSNS利用上の注意点については、全学生に対して「インターネット利用に関するガイドライン」と題する資料を配布するとともに、SNS利用にあたっては著作権侵害、名誉棄損、プライバシーの侵</p>	<p>4</p>	<p>現在の取組を継続する。</p>	

	害等法的に問題となり得ることに十分注意するよう呼び掛けている。なお、新入生には、入学時に SNS に係わる誓約書を提出させている。さらに、留学生には「留学生ハンドブック」を作成配布し、アルバイト条件など留学生として法令で定められた義務等を徹底的に指導している。			
2-7 教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	ホームページにおいて、学校概要やシラバス、職業実践専門課程の情報、財務状況等を開示し、積極的に情報公開を行っている。また日頃の活動内容についても SNS 等を通じて周知に努めている。	4	現在の取組を継続する。	
2-8 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	成績処理や出席管理は本校独自のシステムを構築し、迅速かつ正確に行われている。	4	現在の取組を継続する。	

自己評価点数 4：適切、 3：ほぼ適切、 2：やや不適切、 1：不適切

#### 課題と今後に向けての考え

- ・業務効率向上のために ICT 化をさらに推進する。
- ・ホームページや SNS を活用し、今後も積極的な情報配信に努めたい。

(3) 教育活動

評価項目	具体的取組	自己評価	課題と改善策	評価委員会の意見
3-1 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	教育課程の編成については、教育理念を踏まえ国土交通省の規程に沿って編成されている。また、実施方針等は実態に即し、校長・副校長・教務課長で策定し、職員会議に諮られている。さらに、「教育課程編成に関する規程」を定め、教育課程編成委員会の意見を反映させている。	4	定期的に見直しを行っており、特に課題を感じていないが、より良いものにしていくためには全教員が意見を述べやすい環境の整備、並びに、更なる意識の向上を目指したい。	
3-2 教育理念、育人材像や業界ニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した時間の確保は明確にされているか	教育理念、育人材像や業界ニーズを踏まえたカリキュラムを編成し、各学科長・教務課が主体となって各科目のシラバスを作成し、その中で学習時間の確保を明確にしている。学科期末試験前の休講期間を使用して希望者及び担任から指名された学生を対象に補習授業を実施した。昨年度と同様に、定められた時間内では学習到達目標に達しない学生については、学科再試験前に補習授業と確認テストを実施した。	4	今後も期末試験前の補習授業を継続して実施し、効果を確認したい。インフルエンザ感染等による参加できない学生には解説資料の配布等、違う形での対応を考えていきたい。	
3-3 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	各学科の目標達成に向けたカリキュラムは、国土交通省指定の教育科目を踏まえて体系的に編成されている。昨年度同様に4年次は4限目終了後に放課することなく全員、国家試験対策に充てた。	4	1年次はこの時間を有効活用できていない。学生が自主的にレポート作成等で残っている姿はみられた。1年次においてもこの時間を有効活用し、成績下位者や学生全体の理解度の差が少なくなるよう対策を立てていきたい。	

<p>3-4 キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか</p>	<p>業界と連携した実習やインターンシップを実施し、キャリアアップに努めている。教育課程編成委員会や学校関係者評価委員会での意見についても積極的に導入している。また、職業人としての能力を身に付けることを教育目標の一つとし、クラス担任を中心に学生指導を徹底している。</p>	<p>4</p>	<p>現在の取組を継続する。</p>	
<p>3-5 関連分野の企業・関係施設等や業界団体との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか</p>	<p>企業及び業界団体から委員を迎えて教育課程編成委員会を年2回開催している。その中で、カリキュラムを検討し、シラバスに反映している。</p>	<p>4</p>	<p>現在の取組を継続する。</p>	
<p>3-6 関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技、実習等）が体系的に位置づけられているか</p>	<p>一級4年次にインターンシップを実施し、毎日、レポート提出を義務付けている。また、担当教員は定期的にインターン学生受入企業を訪問して実施状況の確認及び調整を行うと共に、学生に対し適宜指導を実施している。 今年度も、2年生を対象とする、企業から派遣された現役メカニックのプロ目線での実習サポートは、企業様の都合により実施できなかった。</p>	<p>3</p>	<p>次年度は実習の中で企業様にサポートをしていただけるよう、調整していきたい。プロからのアドバイス等が頂けることは非常に有効であるため、ご協力いただける企業様と内容も含め実施したい。</p>	

3-7 授業評価の実施・評価体制はあるか	学生による授業評価は、前期と後期に年2回実施している。アンケート結果については、教員間で回覧し、相互評価することにより、各自の授業改善に生かしている。今年度は、google フォームを使用して実施した。	4	学生はスマートフォンを使用するため、その際に答える項目が全部表示されているかなど、確認を行いフォームの改良を実施していきたい。	
3-8 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	業界による外部評価は、学校関係者評価委員会により行われている。	4	学校関係者評価委員会にて評価をいただき、改善点を取り入れている。今後もこういった外部からの目線や評価による意見を真摯に受け止め改善を図っていきたい。	
3-9 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は、学則や教務規程によって明確に定めている。特に、卒業の際、学生が身に付けるべき資質・能力についても、ディプロマポリシーを定めて判定している。学生には学則及びその他関連規程を掲載した学生便覧を全員に配布し、各担当部署よりオリエンテーション等で周知徹底している。 欠席又は遅刻をした場合は、1週間以内に補講を完了することとなっているが、入学時は意識しているものの、段々と意識が低下し、進級、卒業前でも補講が完了していない学生が増えてきた。	4	補講については、時間数が増えると留年や退学にもつながる内容なので、今後も厳しく指導していきたい。	補講の実施に関して、種々の方法で行うことも検討してはどうか。
3-10 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体	自動車整備士資格取得に向けたカリキュラムを編成している。成績が思わしくない者に対しては、別教室にて別メニューで対策を実施した。今	4	今年度は、二級自動車整備士資格取得率 100%を達成できなかった。今年度の反省点を踏まえ国家試験全	

系的な位置づけはあるか	年度も就職の際取得しておくくと有利な資格については夏季・春季休暇等を利用し、資格取得のサポートを行った。		種目合格を目標に、全教員で協力して対応していきたい。また、一級自動車整備士資格においても同様に、高い合格率を出せるよう対応していきたい。	
3-11 人材育成目標の達成に向け授業を行うことのできる要件を備えた教員を確保しているか	第一種養成施設の指定基準に準拠するため、資格や経験年数及び学歴等を満たした教員を確保している。また、一級未取得者であっても、上質な技術、高度専門知識資格を満たしている教員を確保している。	4	現在の取組を継続する。	
3-12 関連分野における業界等との連携において、優れた教員（本務・兼務含む）を確保しているか	新規採用を行う際、3-11 を満足する教員を関連分野の業界から紹介いただき、人間性や教育に対する意欲などを面接で確認することで、若くて優れた教員を確保している。	4	現在の取組を継続する。	
3-13 関連分野における先端的な知識・技能等を習得するための研修や教員の指導力育成などの資質向上のための取組が行われているか	今年度は、新型コロナウイルスの感染も収まり、スバル、トヨタ L&F、JAMCA などによる新技術研修、教職員夏季研修会など案内があった研修会には全て教員が受講した。	4	次年度も研修には積極的に参加していきたい。また卒業生が出場する技術コンクールの見学にも参加したい。	外部から技術コンクールの見学に来ていただくことで、実施する側のモチベーションアップに繋がる。ぜひお願いしたい。

3-14 職員の能力開発のための研修等が行われているか	外部講師を招き、事務職員に対して学生募集に関する戦略について、定期的に指導をお願いしている。留学生や日本学生支援機構奨学金に関する研修会には、教員とともに必ず参加している。	3	現在の取組を継続する。	
-----------------------------	--	---	-------------	--

自己評価点数 4：適切、 3：ほぼ適切、 2：やや不適切、 1：不適切

### 課題と今後に向けての考え

- ・ 教員自身の一級自動車整備士の取得率が100%となるよう教員の意識改革を図って行く。また、授業の内容プラス人材育成に必要と思われる経験知や暗黙知と呼ばれる教員の知識を、いかに学生に伝えていくかを引き続き全教員で検討して行きたい。
- ・ 事務職員に求める能力は多岐に亘る。今後とも継続して、能力開発に関する研修は積極的に参加させたい。
- ・ 企業側からの講師派遣実習または企業のトレーニングセンターへ出向いての実習が、学生・教職員に良い影響を与えている。今後も企業側とさらに連携して充実した教育活動の推進を図りたい。
- ・ 企業の方の実習サポートは学生にとっても、企業側にとってもメリットがあると感じられる。今後は、さらに連携し充実した教育活動の推進を図ると共に、その他の年次にも入って頂ける形としたい。
- ・ 国家試験対策については、今年度も計画から問題印刷までを学科長が中心となって行った。二級については印刷部数も多いことから、全教員で担当を振り分ける等の工夫が必要な時期だと感じる。学科長を中心に、それぞれの負担が増えすぎないように、また、お互いをサポートできるよう全教員で検討したい。
- ・ 中古自動車査定士は希望制にすることで合格率が上がった。資格取得に関しては、必要性、有意性をしっかりと学生に伝え、自分から取得したいと思えるよう全教員で意識向上に努める。

(4) 教育成果

評価項目	具体的取組	自己評価	課題と改善策	評価委員会の意見
4-1 就職率の向上が図られているか	<p>就職率は毎年 100%である。就職斡旋は、学校に求職希望を提示した学生を対象に行っている。求人件数も優に 200 社を超えており、自動車整備士に対する企業側の求人ニーズは、依然として大きいものが感じられた。就職活動時期が早いため、入学して早い段階での工場見学を実施し、更に夏季休暇中に企業説明会に参加するよう指導している。企業講習も数社実施しており、就職に対する意識付けを行っている。最終的な面接指導や書類作成に関する指導は、クラス担任をメインに全教員できめ細かく行い、就職率の向上を図っている。</p> <p>また、今年度も学内企業説明会を実施し最終的な企業選びの機会を設けている。</p>	4	<p>業界全体が人材不足なため、就職率については今のところ問題はないが、就職に対する覚悟が足りないまま卒業し就職していく学生が目につくようになってきた。そうなるとう早期離職につながりやすいので、できるだけ学内で社会人としての心構えや、働く意味、意義などをより一層指導していきたい。卒業後については、企業より卒業生の情報を連絡していただくことも増えてきたので、緊密に連携を取り早期離職を防いでいきたい。</p> <p>内定者研修について、終了後に学内での振り返りを行うようにする。</p>	<p>採用時期が早まったことで、会社側も内定者に対する研修の機会を増やしている。</p> <p>学校側でもその研修で何を学んだか、また今後の課題は何かを整理する時間を取ると良い。</p>
4-2 資格取得率の向上が図られているか	<p>自動車整備士の資格取得については 100%合格を目指して、11 月から 3 月まで放課後受験予定者全員に対して全教員が「居残り対策」を実施し、資格取得率の向上を図っている。</p> <p>この結果、令和 5 年度の一級自動車整備士の合格率は 88.2%であり、二級自動車整備士の合格率はガソリン：96.5%、ジーゼル：81.4%であった</p>	4	<p>今後も一級及び二級自動車整備士資格については全員合格を目標に、受験対策の改善に努めたい。さらに、授業中においても資格取得を意識した指導及び対策を検討したい。</p>	

<p>4-3 退学率の低減が図られているか</p>	<p>退学の理由の多くは、遅刻・欠席しがちになり学業不振に陥り退学している。従って、遅刻・欠席する場合はクラス担任に理由を報告することを義務付け、欠席しないよう促している。また、欠席した場合の補講についても、早期かつ計画的に実施するよう指導している。成績不良の学生については、定期的にクラス担任と学科長が学生と面談する、場合によっては保護者も含めて面談し、勉学に対する意識向上や生活習慣などの改善をアドバイスしている。経済的な理由や進路のミスマッチングなどによる退学があるが、学校として、組織的、計画的に退学者の減少に努めている。</p> <p>また、成績不振の学生を対象とした期末試験前の勉強会を開講した。こういった取り組みの結果、今年度の退学率は昨年度の9.83%から7.23%へと減少した。</p>	<p>4</p>	<p>今年度は退学率が減少したが、まだまだ満足できるものではないので、引き続き改善に取り組んでいきたい。そのために、学生と教員間の信頼関係をさらに構築して行くこと、また学生間での友人関係の悩みやトラブルなどを早期に察知する仕組みの構築などの検討を引き続き行い、退学率の低減を図りたい。</p> <p>学生に車に興味を持ってもらうためのきっかけとしてコロナの影響のため中断していた有志によるカート走行会なども再開できたので継続していきたい。</p>	
<p>4-4 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか</p>	<p>卒業生全員の活躍や評価を把握するのは難しいが、企業との情報交換によりそれらを把握するよう努めている。その中で今年度はある企業から卒業生が整備技能競技前項大会へ出場する旨の報告があり、実際に見学することができた。今後も企業には卒業生の活躍状況がわかれば教えて欲しい旨はお伝えしている。</p>	<p>3</p>	<p>卒業生の活躍を把握するためには、企業との連携を密にする機会を多くする必要がある。さらに、卒業時に卒業生自ら活躍ぶりを本校に報告するようお願いする。同時に同窓会の協力もお願いしていく。</p>	

4-5 卒業後のキャリア形成への効果を把握し、学校の教育活動の改善に活用されているか	企業に対して卒業生の仕事ぶりや評価などについてヒアリングを行い、仕事の内容やどのような能力を身につけておくべきかを授業の中で各教員が適宜学生に伝えている。また、可能な企業には説明会の時に卒業生に同行してもらい、仕事内容や整備士としてのやりがいなどについての話をお願いしている。	3	卒業生と接することにより、学校教育においてどのような能力を身につけておくべきだったかなどについて聞き取り調査を行うことを検討する。	
--	--	---	---	--

・ 自己評価点数 4：適切、 3：ほぼ適切、 2：やや不適切、 1：不適切

### 課題と今後に向けての考え

- ・ 就職率は100%を維持しているが、就職後の離職率が増加している。企業から見た離職の原因などについて調査し、離職率増加に歯止めをかけたい。
- ・ 今年度は、二級ガソリンが96.5%、二級ジーゼルが81.4%であった。一級筆記においては88.2%と例年と同じレベルまで回復した。
- ・ 次年度はすべての試験で100%合格ができるよう、一層の改善工夫が必要である。
- ・ 退学率低減については、ここ数年の大きな課題である。今年度の退学率は7.23%で、昨年度と比較して退学率が2.60%減少した。退学理由は、遅刻・欠席による勉学意欲の減退と経済的事由が目立っている。自動車好きではない学生が増えてきている中で、いかに整備の楽しさを伝え興味を持たせるかということが重要になってきている。今後も、退学率5%以下を目指して、自動車整備の社会的意義や楽しさを伝えながらも職と教育の両立を検討し、魅力ある人材の育成に努めることが必須課題である。

・ **参考資料**：令和5年度における退学率、自動車整備士合格率並びに就職率

- ・ 1) 退学率 7.23% (2022年度9.83%)
- ・ 2) 自動車整備士合格率
  - ・ 一級筆記 88.2% (2022年度58.3%) 2年次修了時に全員二級ガソリン、ジーゼル取得済
  - ・ 二級ガソリン 96.5% (2022年度98.3%)
  - ・ 二級ジーゼル 81.4% (2022年度92.4%)
- ・ 3) 就職率
- ・ 就職希望者に対して100% (2022年度100%)

(5) 学生支援

評価項目	具体的取組	自己評価	課題と改善策	評価委員会の意見
5-1 進路・就職に関する支援体制は整備されているか	<p>「進路支援センター」にて、職業指導の基本方針、対策、情報収集、履歴書指導を行い、就職支援を行っている。就職の為の企業資料は、就職を希望する本校学生全てがスマートフォン等でQRコードを読み取り、自由に閲覧し就職活動の指針となるようにしている。また、クラスによって指導内容に差が生じないよう担任への就職活動取組指導に努め、担任及び進路支援担当教員が面接指導や書類作成に関してきめ細かく指導を行うよう支援体制を整えている。企業説明会は、各企業が魅力をアピールできる態勢を作り、希望先への就職活動支援に努めている。</p>	4	<p>早期離職者減少のためにも、企業とのミスマッチをできるだけなくすように企業研究をしっかりと行うよう指導する。さらに各学生にあった企業を選ぶことができるよう適切にアドバイスを行う。</p>	
5-2 学生相談に関する体制は整備されているか	<p>学生からの相談は、主にクラス担任が対応するが、相談内容によっては複数の教職員が関わるようにし、教職員間の情報共有を密にしている。また、セクハラに関する相談も女性教職員が担当し、気軽に相談できる窓口も用意され、女性教職員採用で女子学生の相談体制も整っている。</p>	4	<p>現在の取組を継続するが、特に、人間関係に関する案件については複数教職員で慎重に対応し、教員間での情報共有も行う様にする。</p>	

5-3 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	<p>入学金の減免、授業料の減免、日本学生支援機構等の奨学金制度、企業奨学金制度など学生の経済的側面に対する支援が全体的に整備され、有効に機能している。また、高等教育の修学支援制度に係る給付型奨学金（授業料等減免策を含む）も導入し、経済的な理由による退学者の減少に努めている。また、貸与型奨学金の適正額（借りすぎ等）について、一人ひとりに寄り添い学生にとって最も良い金額に設定するように指導している。</p>	4	<p>現在の取組を継続するが、一人ひとりの経済的背景の変化にも気を配り相談しやすい環境づくりに加え、具体的なアドバイスができる体制を構築していく。</p>	
5-4 学生の健康管理を担う組織体制はあるか	<p>年に一回の健康診断を行い、学生の健康管理は適切に実施されている。再検査が必要な学生に対しては再診することを指導し、結果の提出をお願いしている。</p>	4	<p>現在の取組を継続する。</p>	
5-5 課外活動に対する支援体制は整備されているか	<p>課外活動は、授業時間数が多い中では、十分に活動できているとは言えない。学校として場所（工房）と予算を提供する支援体制は整えている。学生が自主的に課外活動を提案してきた場合、積極的に支援していきたい。</p> <p>また、少ない回数だがカート大会やサバイバルゲーム大会などの課外活動も行われている。</p>	3	<p>課外活動は同好会顧問のボランティア精神によるところが大きいのので、今後は顧問への支援体制強化を検討したい。</p>	

5-6 学生の生活環境への支援は行われているか	生活環境改善の一環として、遠隔地出身者について指定民間宿舎を優先的に紹介し利用させており、支援は行われているが、近年、一般のアパートでの一人暮らしが増加しており、規則正しい生活が送れるようクラス担任を中心に支援・指導を適宜行っている。	4	現在の取組を継続する。	
5-7 保護者と適切に連携しているか	中間と期末の試験結果を保護者に郵送し、保護者からも学生の生活環境の改善指導をお願いしている。さらに、必要に応じて「電話連絡」により学生の状況を保護者に報告するなど、保護者と学校が情報共有することに努めている。また、2019年度より導入した出席管理システムを保護者との連携や学生指導に有効利用している。可能な範囲において十分な連携が図られている。	4	現在の取組を継続し、退学者の低減に繋げたい。	
5-8 卒業生への支援体制はあるか	卒業後、何等かの都合により離職した卒業生に対する就職支援を準備しており、利用者は増加する傾向にある。同窓会事務局を教員室内に設置し、校内にて定期的に同窓会役員会を実施し、総会の案内事務も行っている。また、卒業後の状況については、就職先企業の人事担当者や先輩OBからの報告連絡及び卒業生本人からの相談等に応じるなど、フォローアップに努めている。さらに、卒業生への活動報告や連絡事項については、本年度、同窓会専用のホームページを開設し、本校ホ	4	現在の取組を継続する。	

	ームページと併せて情報を発信している。卒業後、二級自動車整備士の国家試験を不合格となった場合、希望者に対して学内で受験勉強を指導している。			
5-9 社会のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	「進路支援センター」を中心に企業ニーズの聞き取りを行い、それをカリキュラムに反映させている。また、職業実践専門課程として企業に授業を実施していただき、企業ニーズを直接学生に伝える企業講習も増やしていけるよう取り組んでいる。また、集められた企業ニーズをいかに授業に取り込んでいくかの工夫を行っている。	4	現在の取組を継続する。	
5-10 高校・高等専修学校との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	高校に出向いて、自動車整備士の仕事や整備士業界の動向を紹介するとともに、自動車整備の模擬授業も展開している。また、高校訪問を行い、高校側が望む内容で職業教育を実施できるよう取り組んでいる。	4	現在の取組を継続する。	

・ 自己評価点数 4：適切、 3：ほぼ適切、 2：やや不適切、 1：不適切

#### 課題と今後に向けての考え

- ・ 課外活動は、時間的余裕もなく、学生自ら課外活動を行いたいとの要望がほとんど挙がらず、教員主導のカート走行会等、散発的に活動している状態である。令和5年度は交流イベントとして、新たにサバイバルゲーム大会を複数回行い、学生間交流を深める場を作れている。
- ・ 今後は、学生が中心となって取り組める活動、およびその環境整備を行いたい。
- ・ 社会のニーズを踏まえた教育環境を整備するため、企業が気軽にニーズを発することができる体制作りを継続検討する。また、集められた企業ニーズをいかに授業に取り込んで行くかの工夫をさらに積極的に検討する。
- ・ 学生生活における、学生からの相談は多岐にわたるため、より親身になってフォローできる様に、よりきめ細かく行っていきたい。

(6) 教育環境

評価項目	具体的取組	自己評価	課題と改善策	評価委員会の意見
6-1 施設・設備は教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	<p>各教室には、大型モニターを設置しているので、全教員にタブレット型端末を配給し、ICT 機器の効果的な活用について、コンテンツ作成（導入）を行った。学科授業だけではなく、実習授業時も活用し動画などで動きや構造の理解を深めることができた。</p> <p>次年度は一級自動車整備科3年生の人数が多くなるため、実習場の使用方法について見直した。実習棟1階を3年生が使用することとし、レイアウトを変更した。</p> <p>校内駐車場については、学生が止められるスペースを拡大し、より多くの学生が自家用車で通学できるようにした。</p>	4	<p>今後の実習時に使用が増えるであろう、診断機等の画面の投影目的の為、各実習場にも大型モニターを検討したい。</p>	
6-2 学外実習・インターンシップ、海外研修について十分な教育体制を整備しているか	<p>一級課程のインターンシップは、第一種養成施設指定基準として明確に定められており、3-6 で述べたような教育体制を十分に整備し、確実な学習成果を上げている。</p>	3	<p>一級課程のインターンシップについては、基本的に各学生の就職内定先へ受入を依頼している。企業側の経験値も増し、事前調整等の業務負担は軽減してきている。しかし、受入れる事業場によって、体験実習内容の差異は依然として大きく、指導担当教員による定期巡回・指導調整と事業場担当者とのコミュニケ</p>	<p>今後はリモートでの面談等も検討してはどうか。</p>

			<p>ーションは欠かせない。今後、学生数が増え、かつ、実施場所が県外の広域になった場合の対応が課題となる。</p> <p>事前準備・定期巡回・指導 調整等は、教員で手分けして対処する予定であり、遠方のインターンシップ先にはリモートでの対応も検討する。</p>	
6-3 防災に対する体制は整備されているか	<p>災害時の連絡体制については、緊急連絡放送や避難経路・避難場所を各教室に掲示することで対応している。緊急時の連絡体制は学生にも周知しており、また、消防署と連携し、学生も含め学園全体で訓練を毎年実施している。</p>	4	<p>現在の取組を継続する。</p>	

・ 自己評価点数 4：適切、 3：ほぼ適切、 2：やや不適切、 1：不適切

### 課題と今後に向けての考え

- ・ 3、4年次の実習は、高度教育・即戦力育成の観点からも、一教材に対し少人数（1～3人）での実習が望まれるため、異なる実習内容（実習場）の組み合わせによるローテーション制を検討し導入する。（既存の施設・教材・人材の効率的有効活用）
- ・ 自動車整備士育成における教材は、資格試験の関係からも、自動車整備振興会発行の紙ベースの指定教本に依存しており、市場におけるデジタル教材も数少ない。本校においても、前述の教本を中心に教育を実施しているが、時代の変化、すなわち、自動車の高度化・多様化、学生側の変化とともに、教育の効果が期待できなくなっている現状がある。自動車を学ぶ側の変化と自動車技術の進展に伴った、「より映像的な、より動的にイメージできる教材」が必要である。
- ・ 防災に対する体制は、消防署立会いのもと学園全体で実施しているが、学園全体における災害発生時の具体的な行動基準を定めた災害対応マニュアルを見直し、全教職員が認識しておく必要がある。

(7) 学生の受入れ募集

評価項目	具体的な取組	自己評価	課題と改善策	評価委員会の意見
7-1 学生募集活動は、適正に行われているか	募集戦略室が中心となり、募集計画素案を協議し、職員会議での報告により方向性の共有や計画実施を進めている。また、募集活動全般を効率的に実行するため従来から存在している各制度の改善を図るなど環境の変化に適応しながら状況を分析し、学生募集活動は適正に行っている。本校ではオープンキャンパス（OC）に参加した高校生が受験するケースが多いので、OCにおいて本校の魅力や自動車整備士の社会的意義などを伝えられるように工夫している。今年度もパンフレットのコンセプトと合致するようにホームページのリニューアルを行い、引き続き動画配信も含めて本校の情報をわかりやすく閲覧者に伝えられるようにした。今年度から会場型ガイダンスへの参加を意図的に減らし、学校開催型ガイダンスを増加させた。特に学校訪問を増やしたことによる本校への信頼度の向上を図れたものと感じている。	4	今年度のOCについては、参加者の満足度や歩留まり率など、一定の成果が得られた。また、ホームページやパンフレット、DMを見てOCに参加してくれる例や、直接入試に繋がった例もあった。しかしながら、入学者は80名台前半となり、その原因として二輪コースの閉課程が大きかった。この部分を補うようなOCの強化、特に高校訪問の充実と質の向上を図り、本校の強みである教育力、進路指導力に加え教員力（教職員の心の指導力）の高さを全面に押し出し、高校の先生方の信頼をいただく。その上で自動車整備士志望者増の掘り起こしや社会的意義を伝えてOCやガイダンスにおける面談に繋いでいき、受験へと導きたい。	整備士を目指す人材を増やすことは、今後の自動車業界にとってとても大事なことである。 企業としても協力できる部分は行うので、募集活動は継続して努力願いたい。
7-2 学生募集活動において、教育成果は正確に	教育成果である資格取得状況や就職状況は、志願者が専門学校を選択する上で大変重要な判断材料であるため、教職員が志願者や各高等学校でガイダンスを实	4	現在の取組を継続する。	

伝えられているか	施す際に正確に伝えている。また、このことは、ホームページでも情報を公開している。さらに、今年度も教員によるガイダンス実施は、一部の教員ではなく、全ての教員が実施できるよう養成を行っている。			
7-3 学納金は妥当なものとなっているか	高騰している諸経費や安全・環境性能が著しく進展している自動車技術に対応する高度な教育環境を整えるなど、諸経費の増加により経費は増加の一方である。需要物品経費のさらなる節減を行い、現状の学納金を維持している。2年制及び4年制ともに金額変更前から在学中の校納金総額が40,000円上昇したが、入学金は100,000円減額し、入学手続時の経済的負担を軽減するようにしており、学納金は妥当なものとなっている。	4	現状を維持するが、カリキュラム変更や、それに伴う教材の補充、物価等の状況を踏まえた学納金の見直しに関しては、経費削減を最優先した上で検討したい。	

自己評価点数 4：適切、 3：ほぼ適切、 2：やや不適切、 1：不適切

#### 課題と今後に向けての考え

- ・ 福岡県専修学校各種学校協会や高等学校進路指導研究会による取り決め事項等を遵守した上で、志願者が適切な進路選択が行えるよう、パンフレットや進路情報企画への掲載、ホームページでの情報公開、オープンキャンパスの開催と内容の工夫、高校ガイダンスへの教職員派遣などにより、さらに広く情報提供を行っていく必要がある。
- ・ 自動車は国の基幹産業であり、その安全と安心を確保するためには自動車整備士の存在は不可欠であるが、近年慢性的に整備士は不足している。整備士が今後社会から必要とされる職業であることをアピールするとともに、先進技術に対応するメカニックの重要性を強くアピールし、積極的な募集活動を行っていききたい。
- ・ 教員によるガイダンス実施は、一部の教員ではなく、全ての教員も実施できるよう養成を行っており、引き続きその取組を継続し、在籍する全ての教員が対応できるようにしたい。
- ・ 本校への信頼を獲得することを第一に高校訪問を行い、担当の先生方の信頼を得る。その上で生徒を送り出してもらえよう継続的な信頼関係を構築

し、高いレベルでの安定的な受験者数を得たい。

- ・ オープンキャンパス参加者の減少がみられることから「特典付きの特別オープンキャンパス」を年2回以上開催し、戦略的（地域別・受験動機別）に参加者をコントロールし、全受験生の半数以上をこの企画で獲得する。さらにオープンキャンパス内容や終了後の面談に工夫を加え、受験進展率の向上を目指す。
- ・ 2023年度より取り入れたドイツツアー・ナイトツアー参加者が想定通り高確率で受験に進展している。その効果の分析を行い、2024年度はさらに強化を図る。

(8) 財 務

評価項目	具体的取組	自己評価	課題と改善策	評価委員会の意見
8-1 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	一切の負債を抱えておらず、財務基盤については現状では安定しているといえる。しかしながら、学生からの学納金で学校運営経費が十分に賄われていない。運営経費の中で大きな割合を占める項目は人件費である。財政基盤を安定化させる手段は、人件費削減と入学者数の増加を図ることである。しかし、現状では適正な人員で各種業務が実行されており、人件費削減は困難である。従って、入学者数を増加させることにより、収入を増加する必要がある。今後も学生募集活動を続け、定員を確保できるよう努めていく。管理的経費については、物価高騰により品物や電気代など、かなりの支出が増えている、今後も入札制度の導入・契約内容の見直し等を行い経費節減に取り組んでいる。	3	全体的に学生数が近年増加してきているが、退学者の人数も増えているのが現状の課題である。今後は、過去の退学者のデータを参考に、退学率減少の対応策を検討することが急務となる。 学生募集に関しては、現在の募集内容に付け加え、今後の時代に合った内容を取り入れて活動をする。 管理的経費としては、現在の支出内容をさらに精査し経費節減に努める。	
8-2 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	毎年度3月までには次年度予算を立て、収支計画を作成している。 現状での収支計画は妥当なものとなっている。	3	令和6年度も引き続き、財政安定化のため、在学者数の増加を目指し、学生募集と退学率低減に全力を注ぎたい	
8-3 財務について会計監査が適正に行われているか	顧問税理士の指導の下、定例の会計監査を適正に実施している。監査で指摘を受けた際には直ちに改善を行っている。	4	現在の取組を今後も継続する。	

8-4 財務情報公開の体制整備はできているか	毎年度の決算については、資金収支計算書、事業活動収支計算書、貸借対照表、財産目録等をホームページに公開している。	4	現在の取組を今後も継続する。	
------------------------	--	---	----------------	--

自己評価点数 4：適切、 3：ほぼ適切、 2：やや不適切、 1：不適切

#### 課題と今後に向けての考え

- ・ 財政基盤の安定化に向け、現在の募集活動を継続し、入学者の確保に努める。また、退学者の更なる低減にも努めていきたい。

(9) 法令等の遵守

評価項目	具体的取組	自己評価	課題と改善策	評価委員会の意見
9-1 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	法令や設置基準、監督官庁の許認可などの届出等は適正になされ、それらについては遵守と適正な運営を行っている。	4	法令遵守の取組は信頼の基盤であるので、法人事務局や教育現場においても現在の取組を今後も継続する。	
9-2 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	個人データの電子記録の取り扱い、紙面による情報の漏えい防止等学校が有する個人情報の取得や利用は、作成したプライバシーポリシーに則り適正な管理を行っている。	4	現在の取組を今後も継続する。	
9-3 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	学校や各教員を対象に自己点検・評価を実施し、毎年見直しを行っている。その内容については学校関係者評価による検証も行っている。抽出された問題点は改善し、本校の健全性を保っている。	4	定期的に確認することにより、結果として自己点検・評価のレベルアップに繋がっているため、今後も継続し、精度を向上させていきたい。	
9-4 自己評価結果を公開しているか	ホームページにおいて、自己点検・評価ならびに学校関係者評価の結果を毎年7月に公開している。	4	現在の取組を今後も継続する。	

自己評価点数 4：適切、 3：ほぼ適切、 2：やや不適切、 1：不適切

課題と今後に向けての考え

- ・自己点検・評価については毎年見直しを行い、結果として多くの項目の改善に繋がっているため、今後も現在の取組を継続する。
- ・学校関係者評価においても継続効果が表れており、良い方向に進んでいるため、今後も現在の取組を継続する。

(10) 社会貢献・地域貢献

評価項目	具体的取組	自己評価	課題と改善策	評価委員会の意見
10-1 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を積極的に実施しているか	今年度の学園祭も新型コロナウイルス等の影響で実施できなかった。 自動車整備士登録試験の北九州試験会場として教室を貸し出している。	4	令和6年度は学園祭が計画されており、数年ぶりの開催になる為、以前と同規模での開催が可能であるかの検討が必要となる。 学園祭実行員会での協議にてどの様に開催するのかを検討する。	
10-2 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	年2回の献血活動を行っている。	4	現在の取組を継続する。	
10-3 地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受諾等を積極的に実施しているか	提携高校を対象に、高校生を本校に招き、本校施設を使用した体験授業や電気自動車等の整備業務に係る特別教育を実施している。また、福岡県自動車整備振興会の技術講習を北九州分教場として受諾し講師派遣の貢献を行っている。	4	現在の取組を継続する。	

自己評価点数 4：適切、 3：ほぼ適切、 2：やや不適切、 1：不適切

課題と今後に向けての考え

- ・学校の施設貸出等は地域や業界への貢献の一環として、今後も積極的に行っていく。
- ・年2回実施している献血活動では、学生に積極的に参加してもらっており、今後も継続していきたい。

(11) 国際交流

評価項目	具体的取組	自己評価	課題と改善策	評価委員会の意見
11-1 留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか	日本での自動車整備士の人材不足を補うことと、東南アジアにおける日本車の進出に伴い母国で必要とされる自動車整備士の養成を目指して、平成30年度に9名の留学生を受け入れた。しかし、今後の留学生受入れ戦略は、学生数確保の手段とするのではなく、あくまで世界各国で通用する優秀な自動車整備士の育成に力点を置く。このため、2019年度以降の入学試験合格者数は3~4名に絞っている。2024年度入学者は2名である。なお、本校学生の海外派遣は当分の間実施しない。	4	初めて留学生を受入れて5年が経過した。入学当初の日本語能力不足をできるだけ解消するため、本校での日本語入学試験の最低合格点を引き上げたことにより、日本語能力・勉強意欲・生活態度などに問題がある留学生は現状ではない。今後、留学生の教育や生活の指導が教職員一丸となって推し進められる体制の構築をさらに進める。	外国籍の整備士がいることは当たり前前の時代になりつつある。 これに関しては経験値の積み上げと、それを生かした改善の繰り返しが大事である。学校で基本を学んでいることは非常にありがたい。
11-2 留学生の受入れ・派遣・在籍管理等において適切な体制が整備されているか	職員室内に国際交流室を設置し、留学生の責任者と担当職員を配置している。この交流室での業務は、在留資格更新や資格外活動に関して適切な指導を実施するとともに、毎日留学生が登校していることを確認し、欠席した場合はクラス担任がその日に電話連絡するなど、適切な在籍管理の体制を整備している。	4	留学生管理室と名称を変更し、さらに留学生に特化した機能強化を図る。	

<p>11-3 留学生の学修・生活指導について学内に適切な体制が整備されているか</p>	<p>1年次の定期試験には漢字にルビを振り、問題を理解して解答できるように努めているが、2年次は自動車整備士の国家資格取得対策として、ルビ振りは禁止している。留学生の入学手続きが完了した際、自動車に関する基本的な漢字を習得させるため、入学前トレーニングのテキストとその課題を配布し、解答を提出させ、添削を行っている。入学式直前の4月上旬には、本校の学則や守るべきルールについて、入学前教育を実施している。留学生の生活指導は、クラス担任を始め、国際交流室の職員がその任に当たっている。特に、アルバイトは夜10時までとし、定期試験において成績不良となった留学生には、アルバイト時間を半減させるか、禁止する措置を取っている。下宿先は、本校の指定民間宿舎を職員が斡旋している。さらに、留学生が快適で有意義な留学生活が送れるよう、学校内外の手続きや、留学生として知っておくべきこと、役立つ情報などを掲載した「留学生ハンドブック」を作成・配布している。なお、留学生に配布する書類については、できるだけ漢字にルビを振っている。</p>	<p>4</p>	<p>今年度は1年生に2名の留学生が入学した。教員の留学生に対する学修指導や生活指導の負担はほとんど生じておらず、次年度以降も現在の取組を継続する。</p>	
--	--	----------	--	--

<p>11-4 学習成果が国内外で評価される取組を行っているか</p>	<p>留学生は、二級自動車整備士の国家資格取得に向けて勉学に励んでいる。この資格を取得することにより、企業への就職が可能となり、国内での評価も高まるものと考えられる。そのためには、専門科目の修得はもちろんであるが、日本語能力試験の N2 レベル取得を留学生全員に義務付けている。これまで卒業した留学生 3 名の中で、1 名が日本語能力試験一級、2 名が N2 を取得している。就職指導は、進路支援センターとクラス担任がマンツーマンで行うことで次年度卒業予定者 2 名の就職が決定した。このことは企業において、留学生に対して高い評価が得られたものと考えている。</p>	<p>4</p>	<p>現在在籍している留学生 2 名は学びに前向きで生活状況も極めて良い。意欲も高いこともあり確実に結果を残させるため、早い時期から留学生のみを対象とした国家試験の受験対策指導をさらに強化し合格率 100% を目指したい。今年度入学者 2 名についても同様な成長を期待したい。</p>	
-------------------------------------	---	----------	--	--

自己評価点数 4 : 適切、 3 : ほぼ適切、 2 : やや不適切、 1 : 不適切

#### 課題と今後に向けての考え

- ・令和 5 年度は、2 名の留学生が入学し、順調な学校生活を送っている。今後は、教育体制や在籍管理をさらに強化し、今年度と同様な成果を上げたい。
- ・漢字圏ではない留学生の最大の課題は、漢字の読み書きである。このことについては、時間をかけて習得させるほかないものと考えている。
- ・日本語能力試験 N2 全員合格と二級自動車整備士の国家資格全員合格に向けた更なる受験対策を検討する。
- ・1 年生 2 名が就職内定をいただくことができた。今後も就職率 100% を目指して、就職指導に力を入れていく。